

「天気」投稿案内

天気編集委員会では、会員の多様な要望に応えるために、いろいろな欄を設けて紙面の充実を図っています。各欄の内容の細部について、「天気投稿案内」を年1回掲載して天気投稿規定を補足し、投稿の便を図ることにいたしました。(天気編集委員会)

1. 投稿規定第1項に本誌の内容の主な分類を挙げてありますが、現在、本誌に掲載されている主な欄の説明を後にまとめてあります。
2. 投稿原稿は、これまで横書き原稿用紙を使用するように決められていましたが、ワープロが普及してきたので、白紙にワープロで浄書した横書き原稿でもよいことにします。ただし読みやすいように行間をあけて、1枚に、25字×20行となるようにして下さい。
3. 規定の頁数を超えた場合はとくに編集委員会が事前に了承している場合を除き、原則として印刷頁1頁あたり10,000円の実費を請求します。
4. コンピューターのアウトプットの図のプリントは、そのまま図版の版下に使えるものはほとんどありません。原則として黒インクまたは墨でトレースして下さい。
5. 「天気」の発行期日を守るために、原稿は発行日の2カ月前に印刷所に入稿しなければなりません。編集委員会で原稿の整理をする時間がその前に少なくとも1週間は必要です。ごく短いお知らせなどの記事に限って、発行前月の月末まで受付けます。

論文：原則として未発表の原著論文に限ります。内容は気象に関係がある報文で、現象についての新しい知見やその説明・理論のほか、関連分野への気象学の応用や気象技術に関するもの、地域的な珍しい現象の報告など幅広いものを含みます。長さは原則として図表を含めて印刷8頁以内としますので、記述は冗長にわたらぬよう、簡潔に要領よくまとめて下さい。

短報：珍しい事象の単なる報告、未完成であるが、速報を要する研究成果の概要、会員の目に触れにくい他雑誌に投稿した論文の要約等のほか、比較的簡単な小論文を含みます。長さは図表を含めて印刷2頁以内とします。

解説：「解説」とは、国語辞典によると『わかりやすく説明すること』とあります。ところで、天気「解

説」は難しいので、もっとやさしく、わかりやすいものにして欲しいとの要望をよく耳にします。確かに本欄に掲載されるものには、2, 3の事項について詳しく説明したものや、ある研究分野歴史的発展過程を紹介したもの、あるいは特定の分野の総合報告的なものや事例解析の紹介など、様々なものがあります。他の分野の方々にも十分に理解できるようにと、著者にはお願いしてありますが、読者に誤解を与えないようにとの配慮から、厳密に論を進めて、『難解なもの』という印象を与えてしまった場合も少なくないと思われま

す。「解説」は原則的には編集委員会から執筆をお願いしておりますが、従来から会員からの投稿原稿についても多数掲載しております。今後も会員の皆様からの投稿を歓迎致しますのでよろしくご協力をお願い致します。

気象談話室：「論文」や「解説」とは異なり、気楽に読める読物とします。気象学的なものの方の見方・考え方についての示唆に富んだ話、一般の普及書や教科書には入りきらないような気象現象の別な見方・考え方など、「コリオリの力とは何か？」など説明の難しい問題に対する答えや考え方、「オゾン・ホール」のような最近のトピックに関する説明、小、中、高校生や一般の方々の研究例の紹介など、広く多様な題材を扱います。場合によっては、読者からの質問や、それに対する解答を載せることもあります。記事は学生会員や専門外の人にも分かりやすいものであることが望まれます(学問的レベルを下げるという意味ではありません)。

執筆の原則は次の通りです。①高等学校卒程度の学力で読める平易な記事とし、②一つの記事は印刷頁4頁以内とし、1頁でもよく、長い記事については、連載記事とする。③引用文献等は原則として避け、その記事だけで理解できるようにし、④大学で学ばないと分からないような学術用語は少な目に、用いるときは正確かつ平易な説明をつける。⑤気象学研究者、気象業務を職業とする人たちの社会特有の用語は用いない。

シンポジウム：名前のおおりに、国内・国外で開催され

たシンポジウムの報告を扱う欄です。これまでは、シンポジウムの発表内容に立入ったものから参加体験記までいろいろな角度からの報告が記事になっています。特に、国外でのシンポジウムは、国外の最新の研究情勢を知る上で貴重な情報源のひとつとされますので、参加された方の積極的な投稿をお願いいたします。

会員の広場：会員の広場は、読者の学会、学会誌に対する意見発表、相互の情報交換の欄です。読者自身が作る欄ですので、会員からの自由投稿で、原則としてそのまま掲載します。情報交換のために特集企画を組むこともありますので、その場合には、原稿の執筆をお願いします。数行程度の短い意見や提案も、もらさず掲載致しますので、特に若い方、多忙な方も、気楽に御意見を寄せ下さい。新聞の投書欄のような、活発な意見交換の場になるように会員諸氏の御協力をお願いします。

支部だより：支部だよりでは、地区編集委員等より投稿される原稿を、ほぼそのまま掲載しています。現在は、発表内容の簡単な紹介を含めた地区研究会の報告の投稿が多いのですが、内容その他は特に制限していませんので、支部による特色がでてきます。研究会等の開催の予告等は、開催の前に掲載するようにしていますので、御協力下さい。

質疑応答欄：読者から寄せられた質問に対し、編集委員会が会員の中から適当な方に依頼して答えていただくものです。気象と関係したものならどんな質問でも受け付けます。

月例会欄：年に数回、定期的にかつ開かれている月例会について、実施後そのコンビーナーの方から投稿していただいている欄です。

新用語解説欄：最近盛んに行われている研究計画名など、気象関係の最近話題の用語、新語について、1/2から1頁程度の簡単な説明をするもの。読者からも希望の用語を受け付け、編集委員から会員の方に説明文をお願いしています。

NEWS：NEWSには、気象庁長期予報課の学会員に原稿を依頼している「月平均500mb天気図」と「世界の天候」がありますが、これは、2月分が4月号に掲載されるなど、速報性に富んだものとなっています。今後も速報性に富んだ、各種の気象資料を掲載する予定です。

WCPの窓：“GARPの窓”を引継いで、第28巻(1981年)から始まったコーナーで、WCPに関する国内・国

外の委員会・研究集会の報告がこれまでの主な記事でした。WCPは、会員がその成功に向けて活躍すべき重要な柱の一つです。WCPに関するニュース、意見交換などの投稿も歓迎しています。

研究機関めぐり：研究機関の素顔は意外と知られていないのが実状です。さらに、最近の気象学の発展とあいまって、研究機関の活動は多様化、専門化の道をたどっています。本欄の目的は、このような研究機関の活動状況を紹介することにあります。内容は研究機関のユニークな点、研究業績の中で特筆すべきハイライト、将来どのような研究部門をのばしたいか、研究機関への入り方(採用方法)などで、研究を志す人たちにも参考となるものです。執筆にあたっては事務的・総花的な紹介ではなく、執筆者個人の目でみた紹介をお願いします。

素顔'91：この素顔シリーズは、日本国内の学会では会えない気象学の研究者の素顔を紹介しようとするものです。各大学・研究所でこのような研究者の訪問を受けた時には、是非ともinterviewを試みて下さい。普通ではうかがい知れない素顔を見つけられることでしょう。

情報File：「天気を情報誌にしよう」というのが編集部の合言葉です。皆さんが知っているちょっとした気象一般の情報は、ひょっとすると宝の山の入口かも知れません。皆さんの持っているそれぞれの情報を会員全員のものにしましょう。

最近の研究から：会員の皆さん、毎日、研究に仕事に多忙のことと思います。ところで、何か面白いものを見つけた時、誰かに話してみたいという思いにかられたことはありませんか？学会発表や論文にする前に、うきうきした気分で話をしてみたいと思ったことはありませんか？最近の研究からは、こんな会員の気分を満足するために設立しました。“軽やかに、研究の話をしましょう。”

本だな：本欄は、特定の書評担当者に依頼しているわけではなく、会員の皆様の自由な投稿(自薦、他薦を問いません)が基本です。また、これとは別に、編集委員会(学会)あてに書評依頼または寄贈があった場合、委員会で適当と判断したものについて適任と思われる方に依頼することがあります。

大都市はともかく、地方では新刊の入手が難しい状況もあるようです。ひきつづき積極的な投稿をお願いします。また、最近は調査、研究に個人レベルでパソコン等情報処理機器を使うことも多くなっています。会員に役立つこの方面の本の紹介も歓迎します。

海外だより：外国滞在、外国出張時の際の印象・雑感などを肩の凝らない形式で寄稿していただいています。大部分の会員は、海外の研究環境などを容易に知り得ない状況にあります。フレッシュな情報の提供をお願いします。

カラーページ：「天気」では原則として毎号カラー写真を掲載します。このためカラーページに掲載する写真を広く会員から募集しています。「天気」にふさわしいものであれば内容は問いませんが、例えば珍しい気象現象・典型的な気象現象・気象情報処理技術の高度化に伴う典型的な気象現象の表示例・内外の気象観測施設および装置、などの写真をお寄せ下さい。なお、写真には題名と簡単な説明文（400字詰原稿用紙1枚程度）をつけて下さい。

また、論文や解説の写真のうち著者がカラー写真での掲載を希望し、編集委員会もカラーで掲載する方がふさわしいと判断したものについては、編集委員会の経費でカラーページに掲載致します。但し、従来通り著者の負担で論文や解説にカラー写真を掲載するものは随時受け付けております。

卒論関係：気象学・気候学・大気物理学等に関する大学院博士論文、修士論文および大学卒業論文を紹介しません。

90年代の気象学への手引：気象学を勉強したいがどのような本をどのように勉強したらよいか具体的な方法を教えてほしい、と言う天気読者の声にこたえ、現代の気象学を自らの意志で新たに学ぼうとする、気象官署等の気象に関係する職場の職員や大学の学部学生等の会員に役立つための入門講座です。気象学の専門知識が少ない読者にも分かりやすく、なおかつ最先端の様子が手に取るようにわかる魅力的な手引を目指しています。内容は、参考文献として、教科書・参考書等の書籍、最新の情報が掲載される国際学会等の予稿集、各分野の進展を解説したレビュー、時代を画するような論文などを紹介しながら、1980年以降の各分野の進歩を解説し、読者に現在何が分かっているかが分かっていないのかを知ってもらう、というものです。

その他：以上の欄のいずれにもあてはまらない投稿は天気編集委員会に御相談ください。